

参考資料 p3における目標値設定の詳細

リニモ : 中期経営計画を参考に、令和5年度と令和6年度の予測乗客数から今後の予想を「 $y^2=ax+b$ 」と仮定し、計算した。  
 ( $y$  = 予測乗客数 (人)、 $x$  = 年度 (年)、 $a$  : 3,163,776、 $b$  : 63,391,120)  
 これにより算出したリニモ全駅における予測乗客数の「45%※」を目標値の指標として算出した (※全駅のうち、市内6駅の利用者数比率)。

名鉄バス : コロナ回復後の実績を見込んだR5年度推計値は増加する設定 (前年比+8.4%)、R6年度以降は回復の高止まりが想定されるため、現況維持。

Nーバス : 人口増加の伸び率と過去のNーバス利用者数の伸び率を考慮して、下記のように計算し設定した。

① コロナ回復後の年度であるR5利用者数の推定

● R5.4~8月の利用実績から、毎月の前年比割合の平均 (107.5% = 1.075) を算出。

これをR4利用者数 (132,734人) にかかけ算し、R5利用者数を 142,689人 と設定。

② 人口年間伸び率に対する倍率の算出 (過年度実績から)

● 路線再編や便数増減の無いH24→H25、H25→H26、H26→H27、H28→H29、H29→H30の5か年の前年比より、利用者数年間伸び率の平均 (1.050) を算出。また、H24~H30における人口年間伸び率の平均 (1.022) を算出。これらから、利用者数年間伸び率を人口の年間伸び率で割ることで、人口年間伸び率に対する倍率を算出 (1.027)。

③ 将来の利用者数年間推定前年比割合の算出

● R4→R10の人口年間推定伸び率の平均 (1.010) に 人口年間伸び率に対する倍率 (1.027) をかけ算することで、人口増加の割合を踏まえた 利用者数推定前年比割合 (1.037) を算出。

● ただし、路線再編後1年目の運行年度は例年よりも利用者数が減少する見込みがある。これを考慮し、路線再編予定のR8については、次の伸び率を適用する。

R1の路線再編時の前年比割合 (0.864) をH24~H30間の人口年間伸び率 (1.022) で割ることで、路線再編年の人口年間伸び率に対する倍率 (0.845) を算出。

将来の人口年間推定伸び率 (1.010) に路線再編年の人口年間伸び率に対する倍率 (0.845) をかけ算し、R8における利用者数推定前年比割合 (0.853) を算出。

● 上記より 利用者数推定前年比割合 を用いて、R10利用者数を142,402人と設定。

Nーバス将来目標		
R5	142,689	↓ × 1.037
R6	147,968	↓ × 1.037
R7	153,443	↓ × 0.853
路線再編 R8	130,887	↓ × 1.037
R9	135,730	↓ × 1.037
R10	140,752	